

《藤枝市の特性と公共交通に関する利用特性》

藤枝市の移動に係る特性	
人口・世帯	●市の人口は平成20年7月現在132,537人、世帯数は47,010世帯となっており、昭和40年以降増加傾向にあったが、平成7年以降人口の伸びは鈍化している。
	●人口の分布状況は、市南部の平野部市街地に集積。
	●人口密度は、南部市街地部ほど高く、北部山間部ほど低い。最も高い藤枝地区は約4,300人/km <sup>2</sup> に上るが、最も低い瀬戸谷地区は約50人/km <sup>2</sup> で、南北格差が大きい。
	●高齢化率は、市平均が11.6%であり、市街地部が10%前後であるのに対し、山間部で概ね20~30%に達するなど、山間部における高齢化が顕著である。
主要施設の分布	●藤枝駅を中心に青島地区に商業施設の集積が見られるほか、藤枝バイパス沿道や、広幡地区の国道1号沿道地域のスーパーなど、駅や幹線道路周辺に商業施設が立地する。
	●藤枝駅周辺、国道1号周辺、高洲、大洲、広幡地区に事業所・工業施設が集積する。
	●藤枝駅周辺ほか青島地区、国道1号沿道に大規模商業施設が集積する。
	●藤枝市立総合病院をはじめ、主要な医療施設は青島地区を中心に平地部に集積する。
日常の人の動き	●通勤・通学は、藤枝市の就業者の約6割、通学者の約8割が市内に通学だが、市外への就業・通学者のうち、静岡市へは就業が3割、通学が4割、焼津市へは就業・通学とも約2割を占め、藤枝市以外では静岡市、焼津市への依存傾向がある。
	●買物動向は、藤枝市内が約9割。このうち藤枝駅周辺(概ね半径500m圏域)には約4割が集中。移動手段は自動車が約5割を占め、バスは0.2%にとどまる。
	●通院動向は、藤枝市内が約9割。市内通院の約4割が藤枝市立総合病院。市内通院の際の移動手段は、自動車が約6割を占め、バスは約2%にとどまる。

藤枝市の公共交通の整備状況	
バス路線網	●藤枝市には、JR藤岡駅を中心にしずてつジャストライン、自主運行バスによるバス交通ネットワークが存在
	●しずてつジャストラインはH19までに4路線を廃止。うち3路線は自主運行で引継
	●藤枝市と来春合併する岡部町とは、現在、ジャストライン「中部国道線(藤枝~新静岡)」が連絡
	●藤枝駅や藤枝市立総合病院など、主要なバス停への直通便が多く、乗り継ぎは少ない。そのため、市街地においてジャストラインと自主運行のバスで併走する区間が存在
	●ジャストラインの廃止が予定されているバス路線や、新たに自主運行を予定するバス路線が存在
	●商業・工業関連施設、医療・福祉施設、教育関連施設をネットワークするように配置
	●青木や藤枝駅などの藤枝市中心部のバス停には約200本/日以上が停車するが、山間部では2本/日のバス停もあり、バス停間の運行本数に格差
情報発信	●通勤・通学時間帯に運行本数が少なく利用しにくい
	●しずてつジャストラインは、ホームページと携帯電話によって路線、時刻表、運賃のほか、バスの接近状況を知るバスロケーションシステムなどの情報を提供。バスロケーションシステムにおいては、対応バス停においても情報提供
	●自主運行バスは、藤枝市役所ホームページから路線、時刻表、運賃の情報提供
	●自主運行バスとしずてつジャストラインの路線は、互いの路線図でも情報提供

藤枝市の公共交通の利用状況
●バス利用者は減少傾向。自主運行バスは少しずつ増加傾向。

パーソントリップデータから見た移動特性
●藤枝市民の藤枝市内での動きは、JR藤枝駅周辺、高洲地区の工場群、広幡地区の工業団地、住宅が密集する下藪田、時ヶ谷、五十海を発着する移動が多い。
●岡部町民の藤枝市への動きは、藤枝市立総合病院、平成記念病院周辺のほか、工業団地がある横内、八幡を目的地とする移動が多い。

藤枝市のバス路線の採算性
●しずてつジャストラインは駿河台線を除く全15路線が赤字で、H19では約1億3,000万円。自主運行バスも赤字が増加傾向にあり、H19では約3,000万円の赤字。しずてつジャストラインのバス運行に約5,600万円(H19)を補助。

藤枝市のバス利用特性
●H19の市内全路線の利用者数は約290万人。中部国道線が最多で約133万人。
●中部国道線は、旧東海道沿いの市街地、岡部町役場と藤枝駅前を結ぶ区間の利用が多い。
●中部国道線は、岡部営業所をまたぐ東西流動は全体の約2割にとどまる。残り8割は東西それぞれの地域内流動
●瀬戸ノ谷線は、瀬戸谷小学校、住宅地の茶町ほか、聖陵リハビリテーション病院に近接する宮原、藤枝市役所と藤枝駅前を結ぶ区間の利用が多い。
●瀬戸ノ谷線の利用者数は全体の約4%だが、このうち、約45%は山地部と平地部を行き来する利用であり、広域的に利用されている。
●葉梨線、駿河台線は、藤枝市立総合病院と藤枝駅前を結ぶ区間の利用が多い。
●葉梨線の利用者数は全体の約3%だが、このうち、約36%は山地部と平地部を行き来する利用であり、広域的に利用されている。
●藤枝吉永線は、静岡産業大学、藤枝市立総合病院と藤枝駅前を結ぶ区間の利用が多い。
●藤枝相良線は、市南部の高洲、大新島と藤枝駅前を結ぶ区間の利用が多い。
●五十海大住線は、多くは焼津市内での利用。藤枝市内では、五十海と西焼津駅を結ぶ利用がある程度。

↓  
 ≪藤枝市の公共交通に関する課題とその解決策(案)の整理≫

